

AED使用の手順

AEDは音声メッセージと点滅するランプで実施すべき事を指示してくれます。AEDを使用する場合も、心電図の解析の際や、電気ショックを行う際など、やむを得ない場合を除いて、**心肺蘇生を絶え間なく行うことが重要です。必要な時のみ電気ショックの指示を出します。必要がない時は胸骨圧迫を直ちに再開して下さい。**

① AEDを持ってくる

傷病者に反応がなければ、誰かにAEDを持ってくるよう依頼します。誰もいない場合で、近くにあるのがわかっていれば、救助者自身が行きます。AEDは専用のボックスや、事務所受付など目立つ場所に設置されています。ボックスを開けると警告ブザーが鳴りますが、気にせずAEDを取り出し、傷病者の元に戻りましょう。

※ 学校であれば職員室や保健室、ホテルであればフロントに設置されている事もあります。AEDを探すには、施設関係者に応援を求めましょう。

※ 心停止発生からの時間経過に応じて、AED使用より心肺蘇生を優先することがあります。



② AEDの準備

心肺蘇生を実施中にAEDが届いたら、ただちにAEDの準備に移ります。

AEDを傷病者の頭の近くに置くと、操作しやすくなります。



③ 電源を入れる

AEDの電源を入れます。AEDの機種によって、電源ボタンを押すタイプと、ふたを開けると自動で電源が入るタイプがあります。

以降の操作は、音声メッセージと点滅するボタンにより、AEDが案内してくれます。



④ 電極パッドを貼り付ける

傷病者の衣服を取り除きAEDに付属する電極パッドを袋から取り出します。電極パッドの1枚を胸の右上（鎖骨の下）、もう1枚を胸の左下（脇の下5～8cm）に直接貼り付けます。【写真左上】

貼り付け位置は電極パッドや袋に描かれていますので、落ち着いてイラストのように貼り付けます。【写真右上】



パッド装着写真(右鎖骨下、胸の左下)



イラストのパッド装着図



パッド装着写真 良い例(密着している)



悪い例(隙間がある)

※電極パッドは、傷病者の肌にしっかりと密着させます。

※電極パッドのケーブルのプラグをAEDの差し込み口に接続しなければならないものもあります。

※小児（未就学児）には小児用のパッドを使用しますが、小児用パッドが無ければ成人用を使用します。

また、**小児用パッドは成人には使用しないで下さい。**

※AEDには小児用モードと呼ばれる機能が付いた機種もあります。小児用モードの機能がある機種は、小児用に切り替えて下さい。これを用いる状況は、小児用パッドと同様に傷病者が乳児を含めた未就学児と推測される時に使用します。なお、この場合は成人用パッドを用いますが、小児用パッドよりも大きいので、2枚のパッドが触れ合わないよう配慮します。小児用モードは成人には使用しないで下さい。

※パッドを装着するときも、出来るだけ胸骨圧迫を続けます。

電極パッドを貼り付ける時には、特に気をつけなければならない状況がいくつかあります。

(1) 胸が濡れている場合

傷病者の胸が濡れている場合は、電気が濡れている部分を伝わり、電気ショックの効果が不十分になります。乾いたタオルなどで胸を拭いてから、電極パッドを貼り付けます。



(2) 胸に貼付薬などがある場合

電極パッドを貼り付ける位置に、ニトロなどの薬や、湿布薬などが貼られている場合には、まずその薬を剥がしてください。薬の成分が残っている場合には拭き取ります。貼り薬の上から電極パッドを貼り付けると電気ショックの効果が減少し、やけどの原因になります。



(3) 胸毛が多い場合

傷病者の胸毛が多い時は、電極パッドが十分密着しない場合があります。AEDより「パッドの接触が不良です」などの音声指示があれば、もう1度電極パッドを押しつけます。それでも密着しない場合は、その電極パッドを素早く（胸毛ごと）剥がし、新しい電極パッドを貼り付けます。カミソリが付属している場合は、剃ってから貼り付けます。

(4) 医療機器が埋め込まれている場合

傷病者の胸に硬い瘤のような出っ張りがあったら、心臓ペースメーカーや除細動器が埋め込まれている可能性があります。貼り付け位置付近にこの出っ張りがあれば、出っ張りを避けて（少なくとも8cm以上離して）電極パッドを貼り付けます。

⑤ 心電図の解析

電極パッドをしっかりと貼り付けるとAEDは自動的に心臓の状態を解析し始めます。「傷病者に触れないで下さい」などの音声メッセージが流れますので、自分も周囲の人も誰もが傷病者に触れていない事を確認します。

一部の機種では、解析ボタンを押す操作が必要なものもあります。



⑥ 電気ショックと心肺蘇生の再開

(1) 電気ショックの指示が出た場合

解析の後、「ショックが必要です」などの音声メッセージがあれば、傷病者は電気ショックが必要な状態です。音声メッセージとともにAEDは自動的に充電を開始します。周囲の人に、これから電気ショックを行なう旨を伝え、傷病者から離れるよう指示します。誰も傷病者に触れていない事をしっかり確認します。充電が完了すると、警告音が鳴り、ショックボタンが点滅します。同時に電気ショックを行なうように音声メッセージが流れますので、ショックボタンを押し、電気ショックを行います。その後、直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。

※電気ショックを行うと、傷病者の体が一瞬「ビクッ」とけいれんします。電気ショックが完了したら、すぐに心肺蘇生を再開します。

※機種によってはショックの後解析が行われ、傷病者の状態によりさらにショックの指示の出るものもありますので、音声メッセージに従いましょう。

(2) ショック不要の指示が出た場合

解析の後、「ショックは不要です」などの音声メッセージがあれば傷病者は電気ショックが不要な状態です。音声メッセージに従い直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。

⑦ 心肺蘇生とAEDの手順の繰り返し

心肺蘇生を再開し2分（胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせで5サイクルほど）経つと、AEDが解析を始めます。ショックが必要あれば電気ショックを、不要であれば心肺蘇生を行います。

AEDは約2分間おきに解析を実施します。

⑧ 救急隊に引き継ぐまでの対応

救急隊員などの熟練した救助者に傷病者を引き継ぐまで、心肺蘇生とAEDの手順をあきらめず繰り返してください。もし、傷病者が普段通りの息をしだしたり、動きだしたりしても、AEDの電極パッドは剥がさずに、電源も入れたままで救急隊の到着を待ってください。

また、救急隊到着時に傷病者が倒れていた状況、実施した応急手当、AEDによる電気ショックの回数を伝えてください。

注意 AEDには様々な種類があり、メーカーや機種によって音声メッセージが異なります。また、古いタイプのAEDでは電気ショックについての指示がこのテキストに示したものと異なる可能性があります。AEDを使用する時は、落ち着いて音声メッセージに従って下さい。